

平成24年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目： 一般研究

研究代表者： 北川 博史（岡山大学大学院社会文化科学研究科・准教授）

研究分担者： なし

研究題目（和文）：

乾燥地都市における経済開発とその特性－北米地域を事例として－

研究概要（和文）：

貴センターの共同研究として実施した乾燥地における産業開発のマクロ的な動態に関する予察的研究により、同様の自然的条件下にある乾燥地都市であっても経済発展度の差異が認められ、その格差要因の生成は産業開発の特性や社会経済的な状況、産業政策に依るところが大きいのではないということが示唆された（北川 2010、2011）。これを受けて、本研究においては、アメリカ合衆国の複数の都市を対象として、乾燥地都市の経済開発にとって重要な要素について、自然的側面のみならず、これまで十分に検討されてこなかった社会経済的、政策的側面から各乾燥地都市の実態を捉えつつ分析および考察を行い、加えて、都市の持続性の観点からも考察を行うことを目的とした。

本年度は、上述の研究課題に接近するために、サンフランシスコからサンノゼに至るいわゆるシリコンバレーと称される連坦都市圏地域と近年急速な人口増加がみられるアリゾナ州フェニックス大都市圏地域を対象に各都市圏における経済開発の特徴について現地調査を行った。シリコンバレーは、低密度な土地利用ながらも産業集積が著しい地域である。同地域主要産業は ICT 産業であり、乾燥地であっても立地可能な産業に特化した産業構造を呈している。一方、フェニックス大都市圏は中心都市と郊外との機能的分化が顕著であり、中心都市が観光や研究開発に特化した産業開発に特徴付けられるのに対し、郊外では、居住機能のみならず高齢者福祉とその関連産業に特徴付けられる地域も存在している。中心都市の産業構造はシリコンバレーと同様に、乾燥地であっても立地可能な産業に特化したものとなっていることが明らかとなった。